

参考：和泉市信太山丘陵市有地保全・活用基本構想(H27)における公民協働における展開イメージ

(3) 運営体制の枠組みについて（平成 30 年度の総括と今後のイメージ）

<公民協働に関する総括(図 1)>

1.多様な活動団体等の参加

当初から保全活動を担っていたNPO(いずみの国の自然館クラブ、信太の森FANクラブ)や地域住民等に加え、里山講座受講生や高校及び大学等の教育機関、市内の市民活動団体、公益財団法人、公益社団法人など、多様な活動団体が、利用調整会議等を通じて各種活動等に参加した。

2.今後の参画に向けたきっかけづくり

開園後の保育所、幼稚園、小中学校の利用や開園前後の企業の参画を進めるきっかけをつくるため、市より(仮称)信太山丘陵里山自然公園のPRを行った。

3.利用調整会議の機能につながる各種取組

利用調整会議では、保全活動や調査を中心に自然観察会、クラフトなどの利用促進や、公園整備や道路等に関する整備計画の検討を行った。また、広報や里山講座の運営の協力を行った。

<課題>

1.多様な団体の参加があったが、公園開園に向けて必要な公民協働の取組みに対して各種取組を同じ人が重複して行っていることから、各種取組の人数を増やしていく必要がある。

2.利用調整会議では、市事業などに関する整備計画検討など専門的な知識、技術を必要とする内容もあり、専門家などの助言やアドバイスを受けながら、公民協働の取組を引き続き進める必要がある。

3.調査や計画など専門的な内容と、クラフトや観察会など市民に楽しんでもらう企画とを、月1回の会議の場で合わせて検討することは難しく、部会などで個別に検討するなどの対応が必要である。

<今後の運営体制の枠組みタタキ台(図 2)>

1.公園協議会会員を拡大し、グループごとに活動を行う(活動等は協議会会員でなくとも参加できるものとする。)

2.活動を含め広く市民が参加できる「公園協議会」及び「利用調整会議」に加え、事業や利用及び保全活動における専門的、技術的な助言や事業の推進に向けた和泉市庁内間の調整を行う「アドバイザー会議」を設ける。

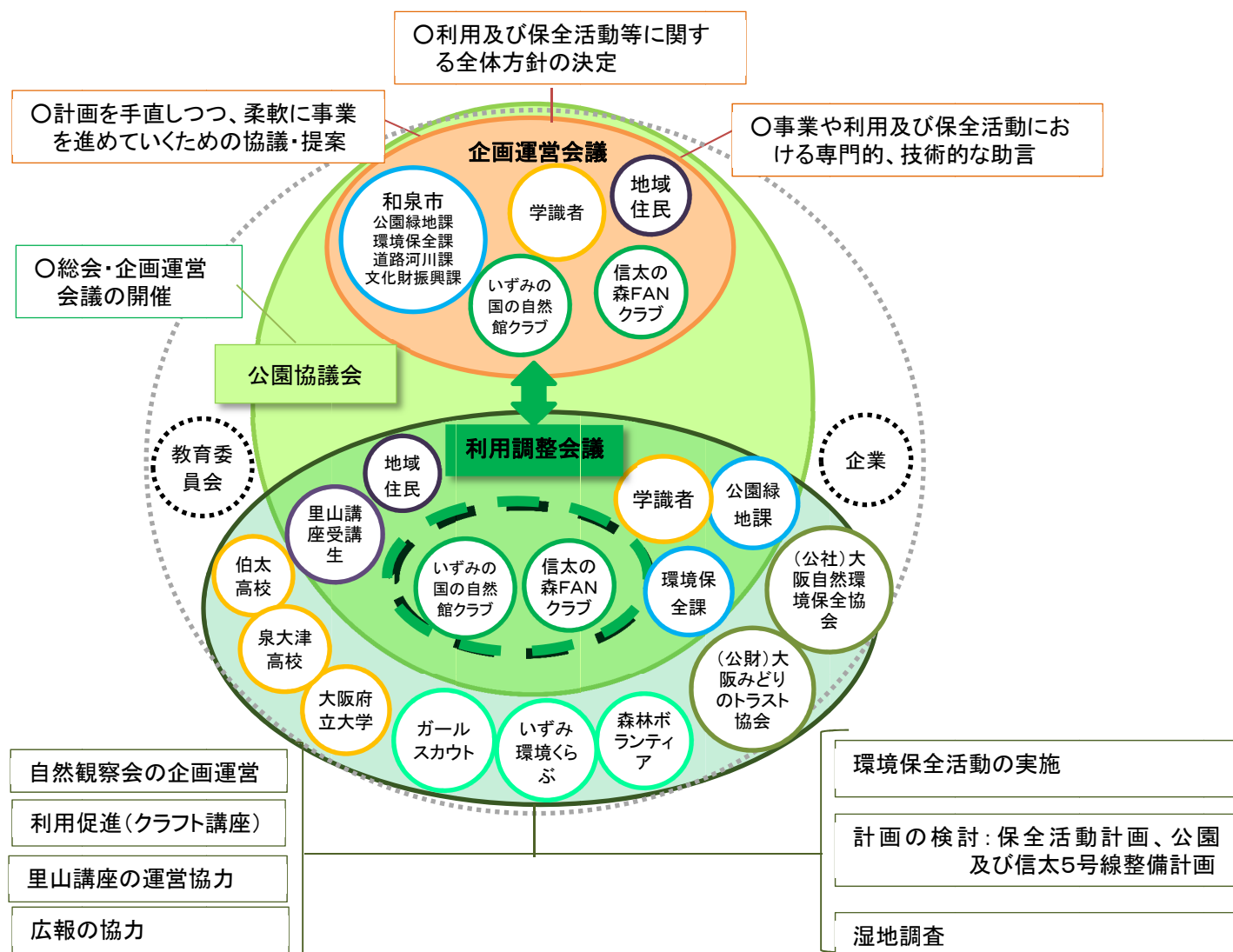
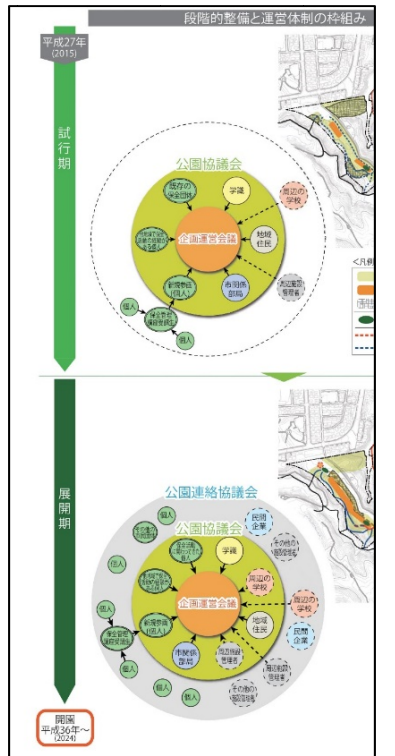


図 1 現状の運営体制の枠組み

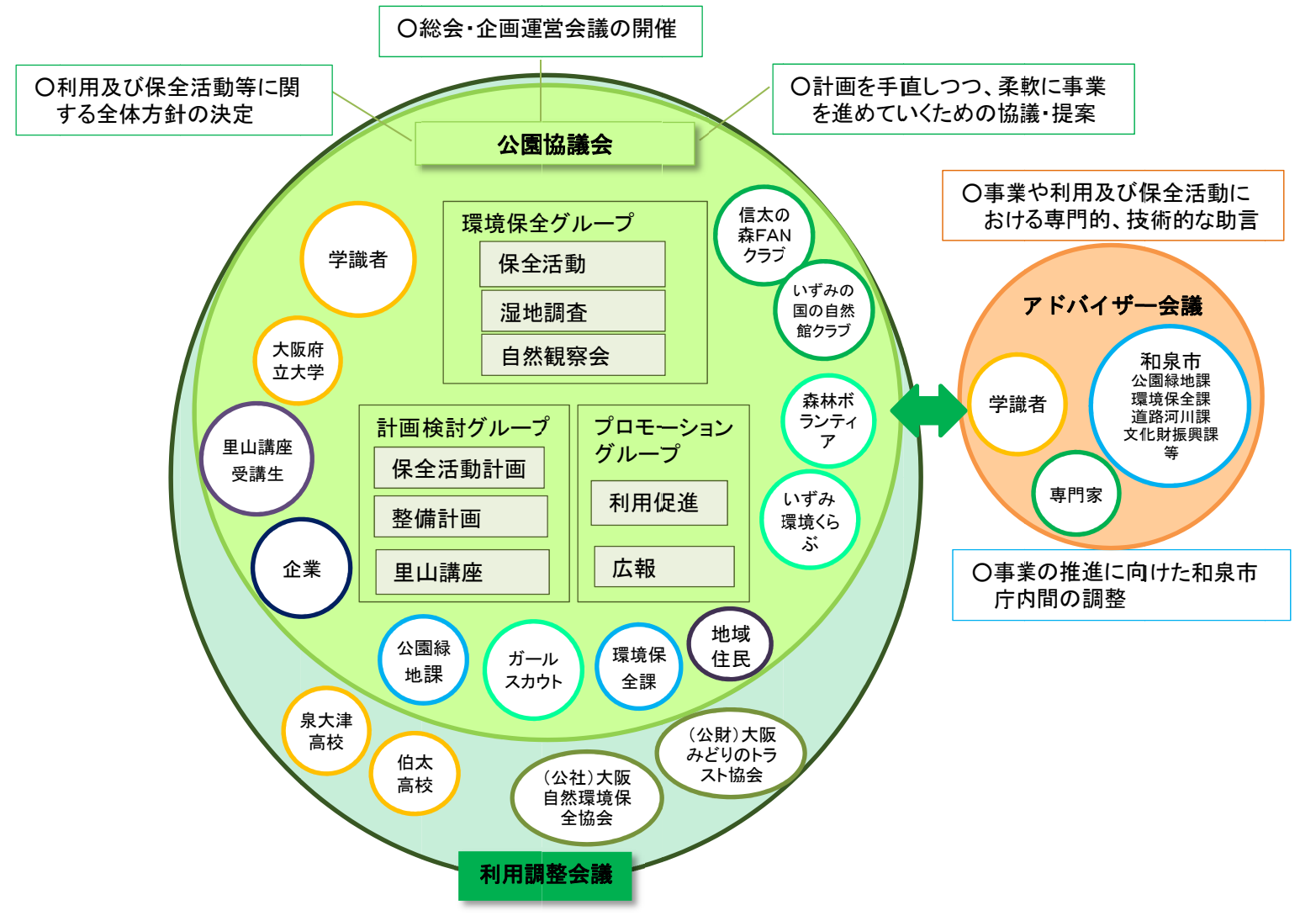


図 2 今後の運営体制の枠組み(タタキ台)